



# 妙たえの光ひかり

通刊91号 復刊71号

2010年9月4日(季刊)

角田山妙光寺 発行

〒953-0011

新潟市西蒲区角田浜 1056

TEL 0256-77-2025

## ススキの穂

秋になると山や河原の草地で普通に見かけて、季節を  
実感させられる。境内の裏の山にも多く、空気の澄んだ  
秋の夕陽を受け逆光で銀色に輝く姿は味わい深い。また  
お月見に欠かせない草で、収穫物と一緒に子供えし、収  
穫物を悪霊から守り、翌年の豊作を祈願する意味がある。  
冴えわたった満月の空にあの穂先はよく似合う。

ことのほか暑かった今年の夏も、いつしか秋風に揺れ  
るススキの穂が目につくようになり、季節の移ろいとと  
もに「諸行無常」、すべての物事は留まることなく変化し  
て行く、というお釈迦様の教えをかみしめたい。漢字で  
は「薄」と書くが「芒」が正しいという。

山超ゆるいつかひとりの芒原

水原秋桜子

ちる芒寒くなるのが目にみゆる

一茶

# 難病に侵されて

小川英爾

河村祐治さん(62歳)は妙光寺に近い村で、檀徒の農家の6人兄姉の末っ子に生まれた。中学を終えると先に行った4歳上の兄を頼って、東京で親戚が営む中華料理店の見習いに入った。やがて独立して都内に店を構え、郷里の実家に近い村の由美子さんと結婚、一人息子も生まれた。その息子はコンピューター関係の仕事に就いたので、店は夫婦で切り盛りしてきた。実家の父親は20年程前に亡くなり、元氣だった母親も弱ってきたので、ときおり里帰りしては顔を見に来ていた頃だった。長兄が弟二人に「お前たちもいずれは墓が要るんだから、妙光寺に求めたらどうか」と声をかけた。「妻も田舎の人だしやっぱりこっちはいいな」と兄弟で安穩廟に決めた。

その河村さん、とにかく仕事熱心で料理に対する思いも人一倍強く、心を込めて作ることが大事と言うの

が口癖だった。妻の由美子さんが「うちの人の作るチャーハンはどこにも負けない絶品ですよ。チャーハンは強い火力であの大鍋を振るからすごい力が要るんです。そこで絶対に手を抜かないから、一度冷えてしまってもレンジでチンするとまた出来立ての味がするくらい旨いんです」と絶賛する。

そんな味と人柄だから常連客も多い。以前近くに住んでいて実家に戻った人が上京のたびに、「大将の味が忘れられない」と言って必ず寄ってくれた。仕事の帰りが遅くなってもここで食べたいと言って、いつも閉店間に飛び込んでくる近所の独身男性もいた。そんなときに残り物でもあると、さらにひと手間加えてお土産に持たせたりした。店に立つ由美子さんも明るく気さくに声をかけるせいで、いつしか二人は客から「大将」「おかみさん」と呼ばれるようになった。



一昨年秋、河村さんは自分の体の異変に気がついた。大鍋を振ってきた腕に力が入らず、腕を上げるのすら辛くなってきたのだ。自転車で自宅から店まで行くいつもの何気ない道で転んで顔を切ったのも、その異変のせいだと感じた。診察を受けてMRIだ、CTだと検査しても異常なしとでた。でも河村さんはどこかおかしいと思った。やがて寝ていても胸が重く感じられて、昼寝も椅子でするようになった。ある常連客の勧めで近くにある整形外科の開業医を受診、その先生から息子が大病院の勤務医で土曜日にかけて診察するから診てもらった方がいいと言われた。診察を受けたら即、「大病院の〇〇先生に紹介状を書くからすぐに行ってください」と言われた。

検査を重ねた末、昨年の年明けになって「筋委縮性側索硬化症（きんいしゆくせいそくさくこうかしょう・通称ALS）」と診断された。十万人に5人程が罹る、原因も治療法も正確には不明の難病とされている。全身の筋肉が低下して、やがて自力で呼吸も飲み込むこともできなくなってしまう。さらに話すこともできなくなるが、その一方で脳や眼球の働きは正常で、意識も判断力もしっかりしているため、一層本人は辛い。診断が下ったとき、医師から「もしもの時は延命処置を

しますか？」と聞かれ、事の重大さを知った。ただちに店を閉め、後始末を同業の兄が来て全てやってくれた。

この年の1月、母が逝った。97才の大往生だった。葬式に出て、三月の四十九日忌法要にも参列できたが、納骨に墓地まで行く体力はなかった。東京に戻って間もないある日、突然意識を失い救急車で掛かり付けの病院に運ばれた。由美子さんが遅れて駆けつけると、若い研修中の女医さんが「オ



「ジちゃん、オジちゃん、しつかりして！」と耳元で必死に声を掛けていた。店の常連客の女性だった。「この病院で研修中なだけで偶然オジちゃんが運ばれるって聞いて。意識はないけど耳は聞こえているから一生懸命に呼んで！」と言う。皆で一所懸命に呼んだらスーと目を開き、意識が戻った。これを機に急きよ人工呼吸器を付けることになった。これは延命処置になるので、拒否する患者も多い。

いま河村さんはあるとき付けなければ楽に逝けたのにとすることもあるという。しかし長男が絶対に反対したのだった。入院中に担当ではない外科の医師がよく顔を出してくれた。最初はなぜ？と思ったのだが、いつも閉店間際に飛び込んできた近所に住む独身男性だった。当時は病院の事務員さんと思いきこんでいた。たびたび病室に来てはオジちゃんと声をかけてくれるので、本当に心強かったという。研修中の女医さんも研修最後の日に玄関でバツタリ会い、由美子さんはお礼を言うことができた。「他のお客さんに病院内で声をかけられたこともあります。夫の人柄のせいですね、ありがたいことです」と由美子さん。

縁と言えば最初に開いた店は別の所で、日蓮宗系列

の立正大学の近くだった。だから客の学生の中にはお寺の息子もいて、「俺の新潟の実家は妙光寺の檀家だよ」「そうですか、角田の妙光寺さんなら知ってます」などという気さくな会話も多かった。当時まだ幼かった長男は俗にいう瘡の虫が強く、発作がおきると白目をむいてあばれるので困っていた。それを聞いた学生たちが「それなら荒行を積んでお加持がよく効く先輩がいます」となった。普段は地方に住んでいるのだが、偶然にも用具を一式持つて来ているという。ワラにもする思いで頼みこんで、河村さんのアパートに即席の祭壇を設けてお祓いしてもらった。その場で息子の指先から白い物が出て、以来ピタリと症状が納まった。「あときは嬉しかった。ご縁を感じましたね」と由美子さんは思い出す。

退院後は幸いにも症状が落ち着いて、訪問医療の先生と訪問看護師の支援を受けて自宅で過ごしている。しかし痰の吸引はじめ日常の介護は由美子さんの手にかかり、休日は息子さんが代わってお世話する。会話はかろうじて聞こえる声か、目で知らせる。または文字盤を指して意思を伝える。それでも河村さんの周りには笑い声が絶えない。冗談を頻発するのだ。だから訪



問看護の研修生の受け入れをよく頼まれる。緊張している若い研修生に「田舎のご両親にときどきメールして近況報告しなさいよ。そうすればお父さんも安心して晩酌がよく飲メール、なんてね。」こう話す由美子さんは「私にもいつも言ってくれるんです、愛してるよって。」ニコニコ笑いながら大きな声で話す目には涙が滲んでいた。

今回は、患者の家族の負担を軽減するための短期入院中に、郷里を訪ねたという。「この機会にたまに田舎に行って、皆の元気な顔を見てきて俺に報告してくれ。そうしたら俺も元気が出るよ」という河村さんの言葉だった。それともうひとつ「田舎で暮らしたいなって本人が言います。でも医療サービスのことを考えると無理じゃない？」って言いました。そうかそれならせめて、葬式は妙光寺に行つてご前様にしてもらいたいな。あとは家族やいつかは孫が揃つて時々墓に参つてもらいたい。それが望みだつて、言うんです。まだ若いけどあの人は十分に一所懸命生きてきました。悔いがないと言うのも本心です。ご前様、その節はよろしくお願いします。」きつぱりとした由美子さんの言葉に、同席した実家の兄嫁が「祐治も本当に明るく世話好きで人に好かれる人だけど、あなたのようなしつかりした奥さんがいてくれ

たからこそだよ。ありがとう」目頭を押さえながら脇で言った。

\*本人ご夫妻の快諾で実名のままです。掲載をお願いした際の返信に「多くの方の支援をいただきながら闘病生活を送っています。家の中は笑い声が絶えないですよ！」とありました。



ご本尊をいただきます

新潟県三条市 羽生 哲朗(76歳)・マサエ(67歳)さん



お参りする対象をご本尊といつて、日蓮宗では仏様の名前を書いた曼荼羅を掛け軸にした形が一般的で、日蓮聖人が書かれたものも多数現存している。羽生さんは分家の初代で亡くなった方はいない。でも仏壇を買い求めて日々のお参りを欠かさず、さらにお盆など特別の日にお参りするのにご本尊を希望し、このたび小川住職が書いた。哲朗さんの生家が妙光寺檀徒で、代々信仰熱心な家系だった。母親が早



くに亡くなり6人兄弟の末っ子の哲朗さんは、この祖母に可愛がられてよくお寺に連れて来られた記憶が鮮明に残

っている。祖母は文字が読めないのに、多くのお経を暗記して朗々と唱える人だった。哲朗さんが12歳のとき父親が中風を患い、その4年後の1月に祖母が、続いて3ヶ月後に父が他界。その3ヶ月間、病床の父が這いずって毎朝祖母の仏壇へのお参りを欠かさない姿を見ていた。そのとき「信仰するってこんなにすごいことなのか」と子供ながらに強烈な思いを持った。

父を亡くしたその年に中学を終えた16才の哲朗さんは、父と長兄が始めた家業の印刷業に就いた。以来50年。やがて活字を使った活版印刷がコンピュータに代わるといふ時代の流れを期に、後を長兄のお婿さんとその息子に託して65才で引退した。「退職まぢかのころ、長年使ってきた活字が不要になり、ガラガラと箱に放り込まれて回収業者に引き取られていくときは何とも言えない寂しさが募りました」と。

勤めていた頃は、出勤するとまず生家の仏壇にお参りしてから屋根続きの工場に出る習慣だった。退職でそれができなくなり、亡くなった人もいないのにと友人の声もあったが、マサエさんと相談して真つ先に仏壇を求めた。そして平成15年には二人揃って妙光寺で生前戒名を受けた。さらに今回のご本尊。やはり妙光寺檀徒の義兄から「あんたらは立派だって言われましてがそんな大げさな気持ちではないんです。ただそれが生きる支えとでもいいますか」と。

背景にもう一つ、偶然にもマサエさんの実家も熱心な日蓮宗だったことがある。「若いころ足の不自由なマサエの祖父を支えて本山の身延山に参拝しました。死ぬ前に一度行きたいと言ったのですから。当時から思えば便利になったし整備されましたね。一度だけ七面山に登ってお参りしたのですがあの感激が忘れられません」

哲朗さんは縁あって25才から謡曲を続けてきた。頼まれて公民館で教えた人がお弟子さんになって「林声会」の会長を勤めるがこれも生き甲斐のひとつになっている。



# 寺の動き

## ●お盆の法要にぎわう

妙光寺ではお盆の墓参りが8月1日です。朝の涼しいうちに家族揃ってお参りして、その後若い世代は海水浴に行き、親世代は本堂での施餓鬼法要に参列して夕方また揃って家路につくという習慣が続いていました。さすがにこうした光景はいまその名残しかありませんが、家族揃ってのお参りは変わりません。

今年は日曜日と重なったため人も多く、大勢の方が墓地を行きかう姿が昼近くまで続きました。11時から本堂での施餓鬼と新盆法要にも多数参列され、暑さの中ご苦労様でした。今春交通事故で幼い赤ちゃんを亡くされた小林さん一家は「あんな風にな盆法要をしてもらって、心がやすらぎました」と、話されました。

## ●『万灯のあかり―妙光寺の送り盆』

8月28日、これまで20年続いた「フエステイバル安穩」から模様替えした「万灯のあかり―妙光寺の送り盆」が、猛暑にもかかわらず500人を超す参加で、朝10時の開門から夜8時半までにぎわいました。

大道芸の独楽のおっちゃんのコーナーでは木陰で、大勢の子どもたちが大喜び。京住院での家族葬展示と相談コーナーは、相談係の井上治代さんが席を離れられな

いほど常時込み合い、同じ京住院のポジヤギのコーナーも大人気でした。院庭のステージも飲食コーナーも暑さの中ででしたが、夜まで活気に溢れました。メイン



墓地から戻って本堂での大法要

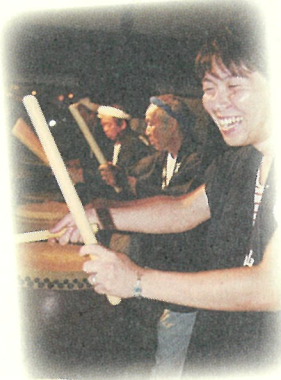
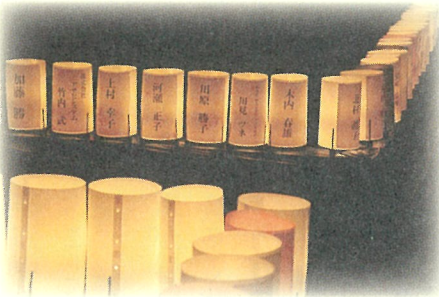
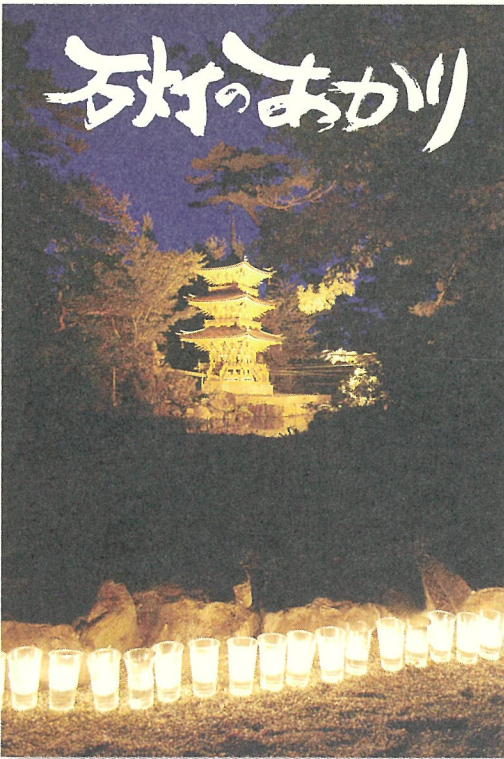


「常経」でのご回向

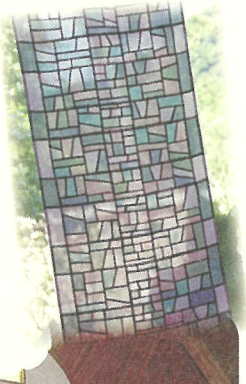
の法要に、本山の身延山で研修中の布教研修生10名が急遽参列することになり、お経を読み続ける「常経」とともに、夕方の法要は25名の僧侶の声が響いて「感激しました」と言う声を数多く戴きました。暗くなってからの「万灯のあかり」は、ロウソクの火が風で消えるなどハプニングに混乱しましたが、幻想的な光景の中で浴衣姿の親子連れが祈る姿が印象的でした。

(10ページに続く)









(9) 妙光寺教報



(7ページの続き)

詳細は書ききれませんので、ごく一部ですが写真の掲載でご了承下さい。また、沢山の方からお花、お菓子、果物等の差し入れや、お志を頂戴しました。混雑していて個々にお礼申しあげることができず、紙面にて感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。ありがとうございます。

### ●『毎日新聞』に掲載

最近は大都市を中心に、親族が亡くなっても葬式をしない人が増えていると耳にします。また全国大手スーパーの『イオン』が葬儀業に参入し、そこで僧侶を斡旋するべくお布施の定価を発表、しかし賛否両論で騒ぎが大きくなり過ぎて撤回したというニュースもありました。さらに『お葬式は要らない』(幻冬舎)と言う本がベストセラーになるなど、世間はお葬式話題でもちきりです。背景として経済的困窮、地域や家族の絆の弱まり、高齢化などが言われます。

そんななかで『毎日新聞』から

『お葬式は要らない』の著者で宗教学者の島田裕己さんと論争をと言われ、一度はお断りしたものの再度の依頼でお受けし、掲載されたのが同封の紙面の写しです。実際には二時間以上のやり取りを、これだけに縮められたので意が尽くされてはいますが、ご参考までに。

十月三日の「お会式」の場やお

彼岸法話等で、より詳しくお話したいと思えます。

「万灯のあかり―妙光寺の送り盆」家族葬相談コーナーで、葬儀の生前契約の相談者が予想を超える大人数でした。そこで、案内文書の作成を急いでいます。とりあえず読んでみたいと言う方は遠慮なくお知らせ下さい。出来次第お送りしますので、その上でのご相談もお受けしますので、気軽にどうぞ。

### ●老松がまた消えました

老木で樹高も境内で一番か二番の松が枯れて、危険なために切り倒しまし



老松がまた

た。三年ほど前から樹勢が弱ったので、処置をしてきたのですが功をそうしませんでした。駐車場と参道の間にあって枝ぶりも良かっただけに残念です。次世代のために松苗を何本か植えています。見ごたえのある姿になるには百年かかります。





# 各種ご案内

## ●生前に戒名をお授けします

戒名とは仏さまのお弟子となった証として生前につけるのが本来で、葬式でつけるのは間に合わせです。日蓮宗では法号と言います。世間では戒名料とか称して、お金で買うがごときに思われているようですが、妙光寺ではこれまでもこれからも経費以外は無料です。

ただし檀徒であることが条件です。安穩会員でも後継ぎの有無に関係なく申込みはできますが、その後は檀徒（年会費一万円）になっていただきます。息子さんなど次の世代がおられる場合は、その代になったとき本人が安穩会員か檀徒になるかを選択します。檀徒になることを強制することは一切ありません。

**10月3日(日)午前9時集合。**研修を受けた後、式に参列いただき昼食後法話、午後3時ころ解散。礼服までは不要ですが、男性でしたら背広にネクタイ程度でお願いします。

式の前の研修は日蓮宗の基本についての住職のお話です。費用として3万円を当日納めてください。戒名とその説明書、戒名を刺繍した略式の輪袈裟、それに数珠を記念に差し上げます。戒名にはお名前の一文字かご希望の文字を入れます。

お申込みは（取り敢えずの問合せだけでも）準備の都合上**9月15日**までに同封のものがきでお願いします。折り返し詳しい案内書をさし上げます。体調が悪くてお寺まで行けないという方はご相談ください。

## ●お会式

別紙でご案内の通り、日蓮聖人第729回忌にあたる御命日の法要を営みます。同封のものがき等でお申込の上ご参加ください。

**10月3日(日)**

午前11時 法要

昼 おとき

午後1時 住職三人トーク

松本・神宮寺―高橋卓志 住職

京都・法然院―梶田真章 住職

妙光寺―小川英爾 住職



昨年のお会式と戒名授与式

## ●秋の一日研修会

お経を習いたい、少しでも内容が知りたい、お寺のこと、宗教のことがさっぱりわからないので知りたいという声があります。そこで春に日帰り一日研修を行います。30名が参加されました。さらに可能な方が半分、毎月第一日曜の朝7時から月例で参加されています。



今年の春の一日研修

数珠の持ち方から正座のコツ、お線香の意味から立て方、そして初めてのお経の練習等々から始めます。過去に参加された方には、さらに上のコースを用意します。住職の法話もじっくりお聞き下さい。

堅苦しいことは一切ありません。お一人でも気軽にご参加いただけます。紅葉の始まる秋の静かな境内で、一日ゆっくり過ごしませんか。

①期日 平成22年11月21日(日) 午前9時～午後3時30分

②対象 檀信徒 安穩会員

③費用 昼食つき 4千円

④申込締切 11月16日(火) 同封のはがき等で  
⑤県外等遠方の方は妙光寺で前泊をお受けします。お部屋は十分にありゆっくりお休みいただけます。ご相談下さい。

## ●総供養会

•年内に都合で法事が出来なかった方の「総供養会」  
今年に年回忌が当たっていたけど、事情で法事をする事ができなかった、と言う方のために、お寺に集まって、合同で法事を行う「総供養会」を計画しました。ご希望の方はお申込下さい。

①期日 12月12日(日) 午後1時～受付 同2時～法要  
同3時～銘々で墓参り

②費用 塔婆1本2千円(一壺につき1本) お供え共通費2千円(墓参用は各自でお持ち下さい) お布施

③お持ちになるもの 位牌、墓参用花、ロウソク、線香  
④服装 平服でどうぞ。

⑤申込 同封のはがき等で12月7日(火)までに 何回忌かと、塔婆の本数、出席予定人数をお知らせ下さい。

\*希望するが当日も都合がつかないという方は、その旨お知らせ下さい。



## ● 月例信行会

年内は12月までの毎月第一日曜日朝7時に本堂集合。法要、住職の法話、軽い作務(庭掃除等)、お粥の朝食、9時ころ終了。その後にコーヒータムもあります。会費千円をさい銭箱に入れてください。予約不要でどなたでも気軽にどうぞ。

## ● 韓国『花まつり』ツアー

来年の5月に土日を含む日程で、韓国ソウルでのお釈迦様の誕生日をお祝いする『花まつり』に参加する旅行を予定しています。新潟空港から団体で行きますが、羽田や成田から出て、ソウルで合流することもできます。既に数名の方からお問い合わせがあります。詳細は改めてお知らせしますが、お考えの方は早めにパスポートの有効期間等をご確認ください。

計画を立てるに当たり募集人数を決める都合上、現時点で参加をお考えの方は、同封のがきにてお知らせいただけると助かります。

## ● 入口参道整備計画

毎々お知らせしていますが、入口の参道を整備する計画です。道路工事の設計図面に基づく見積り金額が1千万円と出ました。さらに植栽などの修景を設計中です。これに対して現在290万円のご寄付を戴きました。

お礼とご報告を申し上げ、引き続きのご協力をお願いする次第です。

## ● イベントご案内

● 「あらあらあれあれ大集合」絵本ライブ、コンサート……。  
出演／おたか静流、大友剛、田島征三、長谷川義史、吉田一郎。

9月11日(土) 16:30～20:00  
前売大人2千円、小中高生1千円。  
問合／090-8773-8767横山。

## ● 「横山貴央のひとり語り」

9月26日(日) 19:00～20:00  
「貴央の芝居がたり・ねずみ穴、安達ヶ原」  
問合／0256-73-3682まきおやこ劇場。

## ● 「中野巨陶芸作品展」

10月1日(金)～11日(月)

## ● 「うさと展」

好評「さとうさぶろう」デザインの服の展示販売。  
10月15日(金)～17日(日)



## ご質問に答えて



こんなご質問をいただきました。

「弟が急に亡くなつて新潟市内でお葬式だったので、火葬場で遺体とお別れした後、すぐに斎場に戻つて三十五日法要とおときがあるから喪主もお骨拾いはできないと、葬儀社の人に言われました。急なことでショックを受けていた弟の嫁が、お骨拾いもできないなんてと、その場に泣き崩れてしまいました。こんなことつてあつていいのでしょうか?」。

お葬式の流れは地域でまったく違つて、本当に色々な形があります。旧新潟市内は確かにご質問のように、火葬後のお骨拾いは喪主以外のわずかな親族だけで、他の人は斎場に戻つて火葬の最中に三十五日法要と、おときをします。

妙光寺のある旧巻町周辺では違います。火葬の最中にお寺に行き、ご本尊

さまに葬儀を終えたお札を伝える。お礼参り〃をし、再び火葬場に戻つて全員でお骨拾いをした後、三十五日法要、おときという流れです。

この旧巻町の形では参列者が葬儀にほぼ一日を費やすことになるので、時間の短縮を目的にしたのがご質問の旧新潟市内の形だと思われまふ。因みに東京周辺でも同様に火葬、お骨拾いの後から三十五日法要とおときでした。ところが近頃は三十五日法要を葬式と一緒にやつて、火葬中に火葬場でおときをして、お骨拾い後解散する、そんな流れに変えようという動きがあります。葬式すらしらない「直葬」とやらが流行るご時世ですから何が起るかわかりません。

というわけでお葬式は地域の習慣と、最近の流れとで微妙なところで形がそれぞれ違います。その場に当たつ

て説明されてもさつぱりわからないのが実情でしょう。ご質問の場合喪主がお骨拾いに残つてもなら問題はないので、気配りのできる葬儀社ならその場の判断で対応すべきでした。その他にも些細なことで大切な最後のお別れが、悔いの残ることがまあります。

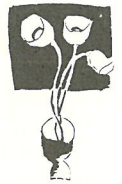
地域の習慣といえども崩れてきているので、自分がどのように送りたいか、家族はどのように送りたいか、ある程度考えておく時代です。必要なら妙光寺にご相談ください。忘れて欲しくないのは、一人の人間が生きてきたその背後には親族以外にも大勢の人のお世話があつたということです。人は一人で生きることが、死後を一人で後始末することもできません。形はともかく、親族に限らず遺されたひとへの感謝の気持ちだけは無くしたくないものです。

最近の妙光寺のお葬式では、親族から(ときにはご本人から)事前に相談を受ける例が半数を超えています。大げさでなく「残念ですが父が長くならないのです。そのときはどうしたらいいでしょう?」といった具合です。



# お寺ってなんだろうな

小川 なぎさ



今日は8月31日です。いつまでも残暑は厳しく、夏の行事が終わって疲れた身体にしみわたり脳みそもパンク状態です。今年の暑さは長く続きますね。

海や山でバカンスなら暑い日も楽しいのでしようが、どうしてこの一番暑い月にお寺の行事が沢山あるのかと、天を恨みたくなくなってしまふことも。

暑い中お寺に足を運んで下さった方、また28日の送り盆行事の裏方で汗を流して下さった多くの方々、本当にご苦労様でした。

28日送り盆の準備に追われるなか、もう10年近く妙光寺で働いてくれた小泉さんが、持病の悪化のために突然退職されました。まさに晴天の霹靂でした。でも、思えば人生には突然の出来事なんて結構あるわけですからしかたがありません。幸い危急に命に関わる

ことではなかったので良かったとも思えます。

ただ小泉さんは日ごろ境内をいつも綺麗に管理してくれていたもので、これからは同じようにきれいに保つことは出来ないかもしれません。まあこちらのほうは新しく人を探すなり、業者に委託することを考えていますが、すぐには無理でしょう。困ったのは行事ごとのおとぎの料理も受け持っていたので、これからは私がまたカムバックしなければならぬことです。結構な量の買出しから料理まで10年ぶりにできるのでしようか？ まあたいしたことなくても我慢してください。献立も昔にもどってみようかとも思いますから、少しずつ思い出すでしょう。お手伝い当番の皆さん、是非よろしくお願ひします。

お寺に皆さんに来てもらおう！という私たちの想いはなかなか遠い道のりでありますが、お盆のお墓参りの後の墓地掃除をするとき、こんなに多くの人がお参りに来ているんだと驚きます。たぶんお寺は墓のあるところ、が第一の存在意義なのだということなのでしょうね。昨日スリランカの小さな村にあるお寺がテレビに出ていました。小さな子供から年配の人まで、みんなが楽しそうにお寺にお参りしているので。お坊さんがこのお寺はこの村の中心的存在です。幼稚園に入る前の子供はお寺にきて学びます。というようなことをお話されてきました。そもそも生活の中での宗教のありかたが私たち日本人とは根本的に違っているのだから、小さい頃からの教育が変わらなければどんなことをしても無駄なもの・・・と少し弱気になりました。

秋のお彼岸には涼しくなるといいですね。結婚した当時、台所頭だった今は亡き檀徒のおばあちゃんに教わった料理を作ります。静かに一日を過ごしてみませんか？ それまで暑さに負けずあと少しがんばりますか。



# ▲ 行事案内 ▼

## ● 秋のお彼岸中日法要 9月23日(木)

午前10時半 安穩廟法要

11時 彼岸会中日法要

昼 12時 おとき

午後1時 法話 住職

どなたでもゆつくり静かにお参りいただけます。おときは当日受付でお申込みください。

## ● お会式、戒名授与式 10月3日(日) 詳細は別紙に

午前11時 お会式、戒名授与式

昼 12時 おとき

午後1時 住職三人トーク

準備の都合上、事前にお申込みお願いします

## ● 秋の一日研修 11月21日(日) 詳細は12ページに

午前9時～午後3時半

## ● 総供養会 12月12日(日) 詳細は12ページに

午後2時—受付 3時—法要



あ  
と  
が  
き



大変な猛暑が続きましたが、いかがお過ごしでしょうか。そんな暑さの中で「万灯のあかり—妙光寺の送り盆が」無事盛大に終えることができてホッとしています。事故や病人がなかったことは、仏様のご加護と皆様のご協力の賜物と感謝申しあげます。

早速、また秋の行事が続きますので急いでお届けする次第です。立て続けで心苦しいのですが、ぜひまたお体に無理の無いところでお出かけいただければ幸いです。文字通り厳しい残暑のなか、ご自愛いただきますように。

小川